

(13) 猪田神社 (いだじんじゃ)

住所：三重県伊賀市猪田 5139

TEL：0595-21-4850

訪問日：2013年6月12日

式内社 旧村社

伊賀國伊賀郡 猪田神社

主祭神：武伊賀津別命

祭神：少毘古那命、上筒男命、中筒男命、底筒男命、健速須佐之男命、天兒
屋根命、健御名方命、速玉男命、事解男命、大物主命、大山咋命、
大山祇命、金山毘古命、蛭子命、猿田彦命、應神天皇、菅原道眞公



狛犬と鳥居



拝殿



本殿

当社は昭和53年頃に本殿背後の猪田神社古墳頂部付近から「伊賀津彦大明神廟前」「天文三年甲午八月一五日施主橋安重」と刻した四角型石灯籠が発見されるまでは主祭神として少毘古那命が上げてあったので、本稿では当社の主祭神を少毘古那命として分類した。

由緒：当社の創祀については詳らかにし難い。社伝によれば、平安時代人は「和名抄」の伊賀郡猪田郷の名を承けた郷の総鎮守として猪田村宮と呼ばれていた、と伝えている。現存する1590年の棟札には「住吉大明神」と記載されており、中世以降明治に至る間は、住吉神社と呼称されていた。

当社を、延喜式内社猪田神社に当てることは、現在に至るまで議論が続けられており、状況証拠のみで決定的な根拠はない。下郡の猪田神社とする決定もし難い。

しかしながら、互いの鎮座する位置は、社寺後方の丘陵を間にはさみ、背面しあっている点や昭和53年頃に本殿背後の猪田神社古墳頂部付近から「伊賀津彦大明神廟前」「天文三年甲午八月一五日施主橋安重」と刻した四角型石灯籠が発見され、他の遺物に室町期の小型唐草文瓦が存し、また後世のものではあるが、当社境内鳥瞰絵図の写しには、古墳頂部に、本殿とは別の小祠が描かれているなど、古くから有力な社として鎮座していたことは確実であり、あるいは森川櫻男氏が指摘



天真名井神社



天真名井



猪田神社古墳

されているとおり、国史見在社伊賀津彦社とする見解も捨てがたい。

明治41年(1908)、山出村社熊野神社、笠部の無格社21社、境内社9社を合祀し、住吉神社の呼称を猪田神社と改めた。加えて、大字上ノ庄の村社菅原神社と、その境内社5社、無格社3社も合祀した。

参道を歩くと左手に「史跡 猪田神社古墳及古井」の石柱と手水舎があり、左前足で玉を押さえた阿形と右前足で小狛を押さえた吽形の狛犬の間を通って、10段ある石段を登ると明神造の石の鳥居がある。少し高まった地に拝殿と本殿を側面から眺めることができる。さらに石段を登ると左手に入母屋造りの拝殿がある。本殿は朱色に彩られた一間社流造、檜皮葺きで、脇殿が二棟ある。本殿の入り口両側にも石造りの阿吽の狛犬が警護している。本殿は棟札によると1527年に再建されており、県内の神社本殿では最古のものである。一間社流造(いっけんしゃながれづくり)、檜皮葺(ひわだぶ)きで軒は二軒繁垂木(ふたのきしげたるき)とし、土台上に立つ。正面には浜縁(はまえん)をつけ、三方を縁として擬宝珠高欄(ぎぼしこうらん)をめぐらし、背面側は脇障子で閉ざす。廂(ひさし)の角柱をつなぐ虹梁(こうりょう)や身舎(もや)の頭貫(かしらぬき)の端部は室町風の渦をもつ木鼻(きばな)とし、各柱上の組物は連三斗(つれみつど)、中備(なかぞなえ)は臺股(かえるまた)となる。特色のあるのは側面の構成で妻虹梁をうける臺股は上に斗を持たない異形のものを用い、妻虹梁の大瓶束(たいへいつか)は下端に鬼面の彫刻を施している。要所に用いられた彫刻的要素は優れたもので本殿を華やかに見せており、県内の代表的な社殿であると共に、伊賀の地方的特色をよく表す建築である。当社は昭和14年10月25日に建造物の国指定重要文化財に指定されている。その他、神饌所、神庫、斎館、参籠舎、手洗所、潔斎所、社宅などがある。



磐 座

境内神社としては行者堂（小天狗清蔵）、天真名井神社（天真名井大神）がある。天真名井神社は参道の左手の森の入口の鳥居をくぐり、少し歩くと、屋根付きの真名井と西行法師が詠んだと言われる「久かたの天の長井田くむ賤が袖のつるべの縄のみじかさ」を刻んだ句碑がある。

境内にはスギ、ヒノキ、シラカシなどの大木やサクラ、ナンテン、ヒサカキ、ユズリハ、ヤブツバキ、サカキ、テイカカズラ、シュロ、マンリョウ、ヤブニッケイ、ネズミモチ、アラカシ、モウソウチク、タラ、ツガ、キツタ、クリ、コシアブラなどがみられる。

祭祀は御井祭（1月1日） 祇園祭（7月14日） 元旦祭（1月1日） 秋分祭（秋分の日）
祈年祭（2月22日） 秋季例大祭（10月22日日） 春分祭（春分の日） 新嘗祭（勤労感謝の日）
春季例大祭（4月22日） 大祓（12月30日） 大祓（6月30日） 遷座祭（3年毎）である。

宝物等としては国指定重要文化財 木造本殿 一棟(1527再建)及び同関係木造棟札 八枚、鉄地銅鍍金 一口（1623）、四角型石灯籠 一基（1534）、県指定史跡猪田神社古墳及び天真名井がある。

特記事項：当社の周辺及び背後丘陵には、五基の横穴式石室をもつ古墳があり、猪田・山出、上ノ庄に広がる長野古墳群が確認される。特に、社殿背後の猪田神社古墳は、石の玉垣をめぐらした軽24m、高さ4mの円墳で、西に開口する横穴式石室をもち、六世紀前半頃のもので推定されている。また社殿南西約100mほどの丘の上には榊の古木が一叢をなしており、山宮の跡と伝承され、社殿南側には「日月石」と呼ばれる円形と三角形の花崗岩の磐座があり、磐座祭祀の跡といわれている等、古社としての要因が数多く存在している。